

## 韓国研修報告書

伊藤萌乃

〈漢陽大学大学病院・薬学大学/連携薬局〉

2 日目に大学病院、3日目に薬学大学と連携薬局を訪問しました。主な病院勤務の内容は、入院患者の調剤、抗がん剤・治療用の麻薬管理、外来患者への服薬指導、薬剤師の教育・指導、薬事委員会への参加、とのことでした。臨床試験に使用するものを管理する部屋には沢山のロッカーがあり、すべてのロッカーに鍵がついていて厳重に管理されていました。また温度が厳しく管理されている薬品もありました。自身の骨髄から自分に合う薬を作る研究を進めているそうです。ロシアやカザフスタンの患者さんが全体の7割を占めている

ということに驚きました。韓国には日本に沢山あるチェーン店のような薬局はほぼ無く、ほとんどが個人経営の薬局だということに驚きました。その理由として売上の9割が院外処方、1割が OTC ということが大きくあるそうです。現地の薬剤師の方に日本のように OTC の売り上げが上がれば韓国にもっと薬局チェーン店が増えるのではないかとお話を伺いました。アイスブレイキング(患者さんとコミュニケーションをとり打ち解ける)を大事にされているそうです。

〈漢方剤市場・漢方博物館〉



←博物館



←市場

博物館には写真の3枚目のような模型が展示されており、当時の様子がひと目で分かりました。またパネルで漢方に関するクイズがあったり、実際に漢方に触れたりにおいをかけたりと体験できるコーナーが多くありとても楽しかったです。

市場には写真の 2,3枚目のように漢方が売られています。このように外で売られているため、市場のどこを歩いても漢方のおいがしました。

〈GC Biopharm 研究所〉

この研究所は3日目に訪問しました。ここでは細胞株の開発、ワクチンの研究・開発が行われています。細胞株は動物の細胞からタンパク質を取りそこで培養されています。自動アームで細胞の移動や実験を行い、人による労働を削減しているそうです。新しい設備を導入し様々な条件で実験を行っているそうです。開発されたものを工場へ持っていき、そこで大きなスケールにして沢山の製品を製造しています。写真は開発された薬やサプリです。

